



▲店内を眺める観光客



町商工会では、道と町からの補助金を利用して町商店街の活性化を図る事業を25年8月14日から26年2月28日まで行っており、その中で、次の3つを目的としたアンテナショップを試験的に開店しました。

- ① 町内店舗や観光、特産品などのPR活動
- ② まちの案内人などの人材育成
- ③ 収集データや調査を反映し、企業化を目指した計画策定。

小泊海浜公園にオープンしたこの施設は「アンテナショップことまり公園 特産市」で、積丹町の海産物などの特産品や観光スポット、商店・飲食店等の紹介をしています。積丹町はたくさんさんの海産物、農産物に恵まれているにも関わらず、そのほとんどがどこで手に入るのか、どこで食べられるのかが分かりにくいため、来町者の潜在的な需要を活かしきれないのが現状です。そこで町商工会では、同会員の皆さんが、自社の特産品販売や情報発信を行うための拠点施設としてこの度、試験的にオープンしました。

この施設は販売収益をあげる「海の家」のような施設ではなく、町内の店舗を紹介し、来町者を導くための「アンテナ」となる施設で、購入需要を持った方を町の玄関口である小泊地区で最初に受け止め、町商店街の利用につなげていくためのものです。今年度については試験的な開店のため、10月末には閉店となりますが、9月の開店から実施しているアンケート調査や、現在行っている試験販売データが各店舗へ提供され、次年度以降売れる商品構成を構築するための基礎データとして蓄積され、今後、より充実した商品構成や情報発信等を行い、本格的な企業化に向けた実践計画の検討が進められる予定です。

こうした新たな挑戦の取組みが、商工会の会員の皆さんの力を結集する契機となり、町の商業の振興による「地域の活性化」を牽引し、その原動力となることが期待されています。

小泊海浜公園にアンテナショップ 開店 新たな挑戦！「商店街の振興へ」

町商工会 ことまり公園 特産市

手ぬぐいに残る ふるさとの歴史

～広瀬光子さん（小樽市）
より寄贈～

『女郎子岩
百合を飾せる
望の貌』

望の貌

これは、入舸町の故川井正順さんが詠んだ俳句です。「望の貌」とは、沖を見つめる女郎子岩の満足気な表情を表したものです。

この句を染め抜いた手ぬぐい

が、小樽市在住の広瀬光子（旧姓小池）さんから積丹町へ寄贈されました。

広瀬さんは町内入舸町出身で、本誌平成25年2月号でも紹介していますが、現在は小樽市で、積丹

町の材料を使いたいずしやニシン漬けを製造・販売しています。

寄贈された手ぬぐいは、昭和46年頃に製作されたもので、かつて入舸町の小池商店で配られていました。句とともに女郎子

岩も描かれおり、絵の作者は、正順さんの子である竹内順導さんです。

手ぬぐいには、大きく「観光積丹」と書かれています。広瀬さんによると、当時の積丹には、「カニ族」と呼ばれた、大きな



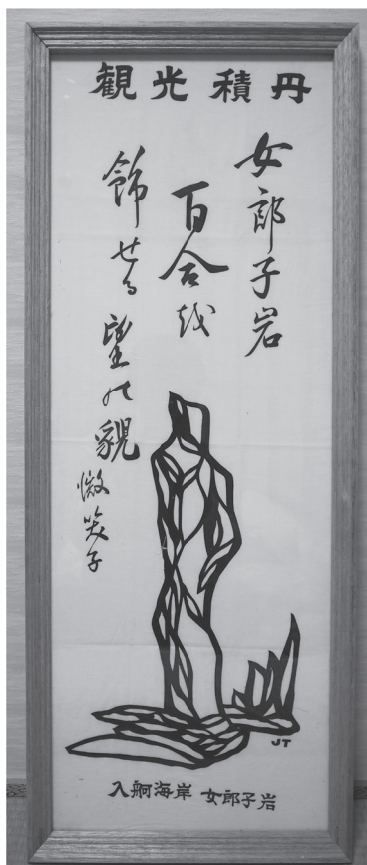
▲昭和30年頃製作

リュックサックを背負った若者達が多く観光に訪れ、小池商店でも、その姿が見られたそうです。

また、この手ぬぐいに先立つこと約15年前の昭和30年頃にも、小池商店ではオリジナルの小さな手ぬぐいが配られていました。こちらも順導さんの描いた女郎子岩が中央に描かれ、積丹を訪れた人々にとって、良い記念となったことでしょう。

皆さんの身の回りにも、こうした町の歴史を伝える道具はありませんか？お心当たりのある方は、役場までご連絡ください。

▲昭和46年頃製作



JTの森2013秋 森林保全活動 — 170名が除伐作業に汗—

町と日本たばこ産業（JT）が共同で森林保全を進める「JTの森 積丹/2013年 秋」森林保全活動が10月5日、美国川流域エリアで開催され、町民やJT社員ら約170名が参加し、秋晴れの青空の下、天然林の除伐作業に汗を流しました。

午前中はシラカバやミズナラなどをノコギリを使用して一本ずつ伐採し、午後は林内を散策しながらのクイズラリーや河村博環境生態系保全技術指導員による「森の課外授業」を聞くなどして、森・川・海の繋がりについて学びました。

2011年から毎年春と秋の2回行われているこの活動も、今回で6回目を数えました。今回も森林保全活動に尽力いただいたJT社員と国・道の林業行政関係機関の皆さんに感謝を申し上げます。

